

## 町民サービスの在り方は



山本 優人 議員

**質問** 町民ニーズにこたえるためには「質の高い住民サービス」の実現に向けて取り組まねばならない。これを追求すれば、町民サービスの福祉や介護、生活保護を手厚くするには町民負担が増えることになり、一方的に福祉関係予算を増やすことは無理がある。現在の職員数130人程度から20年後には半分近くになっても、町民が頼れる質の高い「窓口サービス」のあり方を求めるには一部業務を外注して、職員が余裕をもって町民対応できる環境づくりが必要ではないか。

**答弁(町長)** 質の高いサービスを維持していくため、行政改革大綱や集中改革プランにより、経費節減に努めている。職員の定員管理については、平成18年度に147名であった職員数を、平成28年度までに41名削減し、106名とするほか、事務量は増えるが職員数は減少するという中で、事務事業の整理を行い、機構改革により組織の合理化を図り、住民サービス向上に努めている。

**再質問** 町民の要求は増大していくが、しかしそのすべてを役場が担うということは、人的に見ても、また予算の面でも、実質的に不可能だと思う。業務の一部は民間にゆだね、町民サービスの事務量を削減することが必要と考えるが。

**答弁** 全てにこたえることは困難であり、自助・共助・公助のあり方を住民と協働で考え、取捨選択し、必要

**再質問** 従来のサービスに固執することなく、時代に合った町民の望むサービスを的確に把握して実施したい。

**答弁** 従来のサービスに固執することなく、時代に合った町民の望むサービスを的確に把握して実施したい。

**再質問** 町民から業務移管の提案制度を取り入れる考えはないか。

**答弁** 提案について検討したい。

**再質問** 保育園、給食、上下水道などを民間にし、2倍の人員配置しても運営できるのであれば、雇用と



保育園、給食、上下水道を民間に委託している市町村もあるが…

## 菌床シイタケ生産者への支援について



鈴木 一彦 議員

**質問** 生産者のホダ(菌床ブロック)に、町J.A.峰浜培養で平成24年度に支援するようだが、町の今回の予算計上について町長の考えは。また、今後の生産者の経営状況によっては平成24年度以降も支援があるのか。

**答弁(町長)** 灯油など生産コスト増や、販売価格の低下などに加え、昨年は生産量が極端に落ち込みこれまでにない経営存続の危機に追い込まれている。このような厳しい状況を打開するためには、「ホダ購入費」を低減させることが

**再質問** 再生エネルギー(地熱)を活用した栽培施設の設置に取組んでいく必要があると思うが。

**答弁(町長)** 今回の助成で直ちに経営状況が危ぶまれるわけではないが、経費削減のための見直し・検討をしたのか。



菌床シイタケのホダ

**答弁** J.Aと協力しながら導入できないのか、研修するように支援を出している。コストダウンに繋がるというのであれば有効な策だと思っているので研究したい。

\*生産者のホダに対し、町J.Aで各1000万円ずつ、峰浜培養で1900万円助成をし、ホダ単価を1個当たり20円引き下げする予定です。

**再質問** 保育園、給食、上下水道などを民間にし、2倍の人員配置しても運営できるのであれば、雇用と

**再質問** 今後の災害時に行政と自治会の連絡に地区担当職員を配置することにより、迅速に正確な情報を知ることが出来ると思うが、町長の考えを伺う。

**答弁(町長)** 前もって地区担当者を決めて配置し、より迅速に情報収集などに対応できる。担当者を決めて各自治会に知らせたい。